

市指定文化財
記念物(史跡)

柳沢牧野馬土手

所在地：交進小学校
指定日：平成2年2月23日

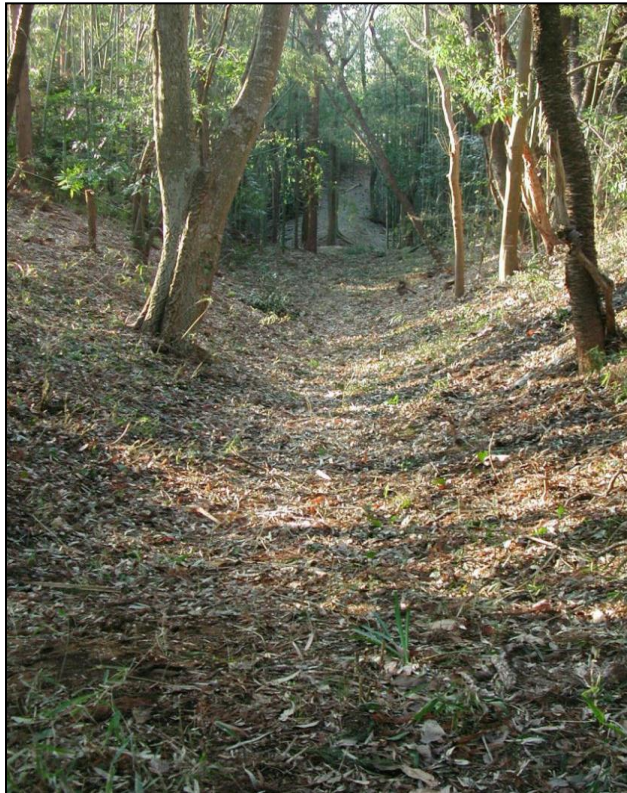
規模等：約1,752㎡(219m)
幅約8m 高さ約2.5m



江戸幕府によって設置された佐倉七牧の一つ、柳沢牧につくられた野馬土手。柳沢牧が寛文2（1662）年に始まるため、その前後に造成されたとみられる。牧場には馬が村や畑への侵入を防ぐ野馬除土手や、牧の区分けや馬の追い込み・誘導のための勢子土手等があり、この野馬土手は、捕込に野馬を誘導するための勢子土手である。

近年の開発により、各地の野馬土手が消滅していく中で比較的原形をとどめている貴重な土手の一つ。

御成街道跡



所在地：沖区(沖1581)
指定日：平成15年2月19日
規模等：1,669.08㎡(約120m)

慶長18（1613）年、徳川家康が東金へ鷹狩に行くため、佐倉城主土井利勝に命じて造られた、船橋-東金間をほぼ直線に結ぶ約40kmの街道。

この街道は、元来「東金新海道」といい、徳川家康・秀忠・家光（大納言時代）の三代の将軍が鷹狩りの際に利用したことから「御成街道」と呼ばれるようになった。また、造成には近隣の96(97とも)ヶ村の農民を動員し、昼夜問わずの工事で、短期間で完成したといわれ「提灯街道」「一夜街道」等の別称も残っている。

現在では船橋-東金間の街道の大部分がアスファルト舗装されたり消滅してしまい、江戸時代初期に造られた街道が残された遺跡として極めて貴重である。

御成街道の一里塚

所在地：上砂区(上砂281)
指定日：平成20年3月31日

規模等：95㎡(10×9m)
幅約8m 高さ約2.5m



一里塚とは、街道沿いの一里ごとに設けられた里程標で、江戸時代には徳川幕府による街道整備政策の一環として、全国の主要街道に設置されたが、御成街道の一里塚は、街道を真っ直ぐに結ぶために、造成の目印として築かれたといわれ、昼は白旗、夜は提灯が掲げられたという。街道沿いには8ヶ所の一里塚があったとされるが、現存するものは八街市の上砂と千葉市千城台東、富田町の3ヶ所のみである。

江戸時代初期に築かれ、ほぼ原形をとどめた状態で現在まで残されており、江戸時代の交通文化や、徳川幕府の政策を知る上で極めて貴重な文化財である。

小間子牧野馬捕込跡

所在地：笹引区(八街へ215-1)
指定日：平成20年3月31日
規模等：5,600㎡(約95×65m)

江戸幕府が運営した佐倉七牧の一つ「小間子牧」の捕込跡。牧では年に一度、放牧している馬を捕らえて上納する「野馬捕り」が行われ、野馬を追い込んで捕らえ、選別するための施設を捕込と呼んだ。

小間子牧の捕込は高さ3～4m前後の土手で区画され、築造年代は寛文2(1662)年頃と考えられ、内部構造を変えながら明治7(1874)年までの二百年以上にわたって使用された。

保存状態は良好で、平成4年に実施した発掘調査により、馬を捕らえ見分する「捕込」、セリや献上する馬を留める「溜込」、牧に返す親馬等を入れる「払込」の3室構造が維持されていることを確認している。

現在、佐倉七牧の中で捕込跡が残っているのは4箇所のみとなった中、近世牧を象徴する文化財として極めて貴重である。

